

# KENBI LETTER

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

高知県立美術館通信



# 101

2018年7・8・9月



collection.vol.101

## 雪餅草‘Yukimochi-so’ (a kind of Arisaema)

1987年 セラチン・シルバープリント

石元泰博 ©高知県,石元泰博フォトセンター

高知県立美術館には34,753点の石元泰博の作品が収蔵されています。写真家二人のコレクションとしてこれだけの量がまとまって一つの場所(公共施設)で収蔵されている例は個人美術館を除けばあまり例がありません。この4月より石元泰博フォトセンターに着任し、手探り状態でこの膨大なプリントたちにらめこをする日々が続いています。が、プリントだけでなくフィルム写真機材、本など、石元泰博の全てがここにあるので、これら大切なコレクションを適切な環境のもとで維持するとともに、いろいろと試みながら、国内外に発信していきたいと考えています。

本題に入る前に高知県の写真家を語るために高知の写真の先駆けとなった井上俊三の話を少しだけさせてください。井上俊三と言わてもピンとこないかも知れませんが、日本で一番有名なポートレートといても良い、片手を懐に入れた坂本龍馬を長崎の上野彦馬のスタジオで撮影した人と言われば分かりやすいかと思います。井上俊三は高知に生まれ、後に日本写真の開祖と呼ばれるようになる上野彦馬のスタジオで写真技術を学びました。慶応3(1867)年に大阪で写真館を開業した後、明治になって高知に戻り、写真館と西洋雑貨店を開業して、写真館、西洋雑貨店の高知での先駆けとなった人です。井上俊三が写真を高知に伝えて以降、高知の写真がどのように広がっていったのかをきちんと調査することが高知県の写真界、そして石元泰博フォトセンターにとっても重要なことだと思います。

巫女のような姿で現れるCo.山田うんの女性ダンサーたちが小太鼓を叩けば、野鳥が呼応し、笙に似た中国の楽器フルスを鳴らせば、一瞬にして空間に緊張が走り、目に見えない何かの気配さえ感じられました。複雑なフルスの旋律は、楽譜無しに一節ずつ積み重ねて習得した作曲家のマキシム・チャリギンとパフォーマーたちの努力の賜物。間の取り方が鋭い神崎智紀の神楽太鼓の演奏、しなやかで優美な巫女の所作を生みだした山田うんの振付、それと対照的な湯浅永麻のソロも見逃せません。現地の観客からも「衝撃の美しさ」と絶賛の声。日没から闇夜に移りゆく変容のなかで立ち上がる「雅歌」が挑戦する現代へ捧ぐ儀式が、高知県立美術館のガラス窓に囲まれた中庭に場所を変えた時、どんな化学反応を見せるか待ち遠しいです。

文◎天野圭悟(当館学芸課チーフ)

## 高知県立美術館

THE MUSEUM OF ART, KOCHI



春の人事異動の嵐を経て、本年度から2名の学芸員が着任しました。早速、執筆を依頼し、本誌デビューです。各業界で話題となっている世代交代は美術館にも。気づけば10年前を知るスタッフは半数以下になっていました。時の流れをしみじみ感じる今日この頃…。  
編集担当◎長山美緒(当館主任学芸員)

# 雅歌

高知フォーミング・アーツ・フェスティバル2018  
日本・オランダ国際共同製作「雅歌」  
コンセプト・演出:向井山朋子

振付:山田うん  
2018年7月13日(金)・14日(土)両日ともに18:45開演  
※15日は映画監督の安藤桃子氏を迎えてアフタートークを予定  
料金:一般前売2,000円 学生前売1,000円(当日ともに+500円)

村の東西を結ぶ道路の最東に、  
アーティストが寝食を共にする一軒家がぽつり。  
その奥の原野に「雅歌」の舞台がありました。

一軒家のご近所さんは羊の兄弟。  
(撮影:上原恵子)

リア』は、コンパクトになったとはい、それでも長さ3m超。1階のホワイエから3階の収蔵庫までのごとに位置に設置された作品を床に下ろすことから、美術品の取り扱いに熟達したスタッフの一糸乱れぬ

ス(画布)をロールの状態にして収蔵庫に一時保管することになった。作業は修復家の大原秀之氏の監督のもと、当館学芸員に加え、日本通運株式会社の美術品輸送のエキスパート10名によって行われた。まずは高い

位置に設置された作品を床に下ろすことから、美術品の取り扱いに熟達したスタッフの一糸乱れぬ

テムワーカーによって、降下作業は慎重に進められ

た。作品が床に無事下ろされたことに安堵するの

も束の間、次はカンヴァスを木枠から取り外す作業にかかる。作品側面のタッカーナイフを抜いて木枠とカンヴァスを分離。続いてカンヴァスを平たく伸ばして

用意していた巨大な芯棒に巻き付けた。最後は収蔵庫への移動だ。芯棒に巻かれてロール化した『グロ

ア』。木枠に張り直し、元の位置に再展示するのは

9月初頭を予定している。本作がその鮮烈な色彩

で、再びホワイエに栄光を譲りあげる日が、今から樂

しみでならない。

ア』。木枠に張り直し、元の位置に再展示するのは

9月初頭を予定している。本作がその鮮烈な色彩

で、再びホワイエに栄光を譲りあげる日が、今から樂



# 王様の美術館

## フランス近代美術とシュルレアリスムの精華

25th Anniversary Exhibition THE KING'S MUSEUM

French Modern Art & Surrealism from the Collection of Yokohama Museum of Art

2018年6月23日(土)~9月24日(月・祝)  
9:00~17:00(入場は16:30まで)

観覧料／一般1,100円(880円)、大学生800円(640円)、高校生以下無料。

※内は20歳以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者(2,580円)は無料。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市長の長寿手帳所持者は無料。

主催／高知県立美術館、横浜美術館、読売新聞社、KUTVテレビ高知

後援／高知県教育委員会、高知市教育委員会、NHK高知放送局、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送

文◎柳澤宏美(本展担当学芸員) 作品はすべて横浜美術館所蔵

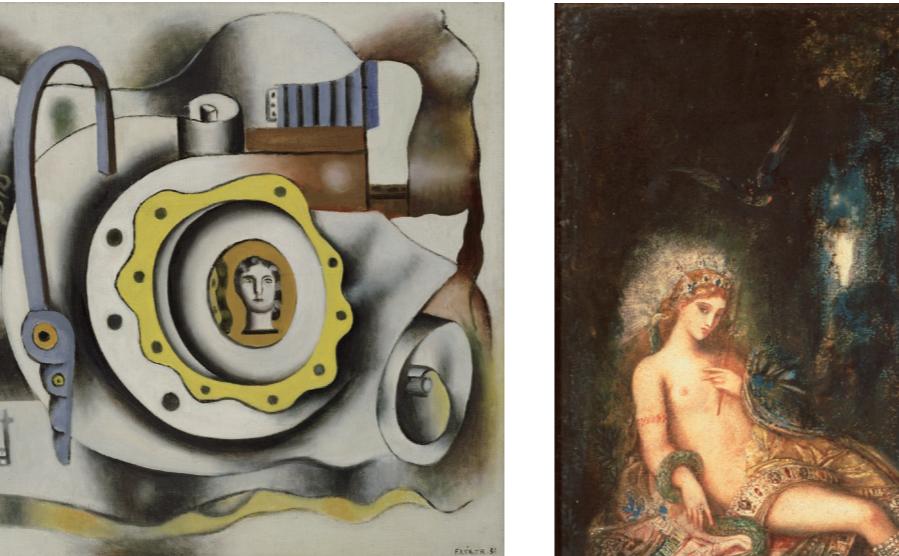
# THE KING'S MUSEUM

## French Modern Art & Surrealism from the Collection of Yokohama Museum of Art

Charles-François Daubigny Charles-Émile Jacque Jean-François Raffaelli Eugène Carrière Salomon Katsuo Fujita Tsuguharu  
Gustave Courbet Georges Moreau de Maunier Paul Cézanne Georges Braque  
Fernand Léger Eugène Atget Henri Rousseau André Derain André Masson  
Yves Tanguy Salvador Dalí Hans Arp Pablo Picasso Paul Klee Oscar Dominguez Hans Bellmer Paul Delvaux Man Ray  
Meret Oppenheim René Magritte Roberto Matta Wifredo Lam Wols John Armstrong Joseph Cornell Giorgio de Chirico

横浜美術館の  
作品群が  
高知へ  
やつてくる!

1859年から諸外国に開かれた港のある街、横浜。外国人居住地であった山の手にある洋館や港の風景などから今も異国情緒が感じられる都市です。その地に1989年に開館した横浜美術館は19世紀後半以降のヨーロッパ近代美術から近代日本美術、現代アートまで幅広いコレクションを収集してきました。本展覧会では日本を代表する美術館のひとつ、横浜美術館のコレクションのなかから精選した19世紀後半から20世紀のフランスを中心とした作品群を高知でご覧いただきます。この時代、それまでの権威あるアカデミーに対してバルビゾン派や印象主義といった新しい芸術運動が興ります。展示では19世紀後半の新しい表現を目指した芸術から20世紀初頭に興ったシュルレアリスムまでの流れを感じることができるでしょう。美術史をたどりつつ、個々の作品の魅力をご堪能ください。



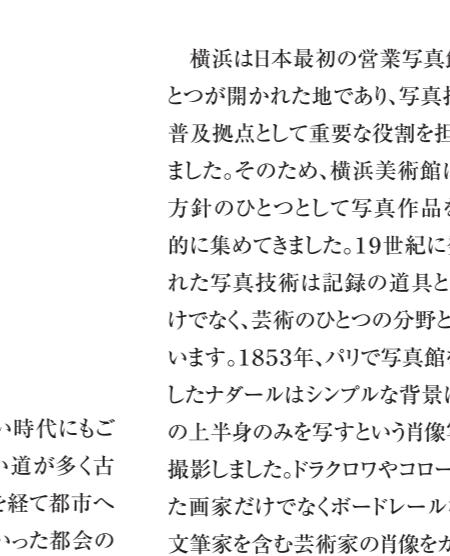
フェルナン・レジェ《コンポジション》1931年、油彩・キャンバス

本展のメインとなるのはダリ、エルンスト、デルヴォー、マン・レイなどのシュルレアリスムの作家たち。ふたつの大戦間のヨーロッパ美術、とりわけシュルレアリスムを重点的な収集方針としてきた横浜美術館には充実した作品群が所蔵されています。20世紀初頭の芸術運動のひとつであるシュルレアリスムは、合理主義や理性で支配されない夢や無意識を表出させることを目指し、意外なものを組み合わせて描いたり、既成品を材料として用いたり、さまざまな技法を試みました。そこには当時のヨーロッパの不安定な情勢を反映するかのような不可解で



オドILON・レドン《女王の美術館》1892-95年、油彩・キャンバス

ユーモアのあるイメージが描きだされています。展覧会のタイトルにもなっているマグリットの《王様の美術館》は暗い背景に山高帽を被った人の形を描いていますが、顔のパーツのみが描かれているだけです。その形はくりぬかれ、なかには風景が描かれています。まるで人物の中と外のふたつの世界が同時に存在しているかのようで、謎めいた雰囲気を醸し出しています。化粧品で成功したルビンシュタインの依頼で制作されたダリの三連画の大作も含め絵画だけでなく彫刻、オブジェ、写真などの分野からもシュルレアリスムの作品を紹介します。



ギュスターヴ・モロー《岩の上の女神》1890年頃、水彩、グラッセ・紙、坂田武雄氏寄贈

世纪末に妖しい女性像を描いた画家モローによるきらめくような装飾を身に着けた女神の姿、セザンヌが美しい色彩を用いて描いたサンクト・ヴィクトワール山、1920年代のパリに集まった異邦人画家のひとり、藤田が描いた乳白色の裸婦像などをご覧いただけます。



ポール・セザンヌ《ガルダンヌから見たサンクト・ヴィクトワール山》1892-95年、油彩・キャンバス

一方でアジェは19世紀後半の変化しつつあるパリの姿を早朝の街を歩きながら撮影しました。当時のパリを知る貴重な資料であると同時に人気のないパリの写真は独特的な雰囲気を持ち、シュルレアリストたちを魅了しました。そのほかケルテスやラルティングなどによる20世紀初頭の写真をまとめて展示します。



アンド烈・カルテジエ＝ルブラン《パリの通り》1928年、銀版

一方でアジェは19世紀後半の変化しつつあるパリの姿を早朝の街を歩きながら撮影しました。当時のパリを知る貴重な資料であると同時に人気のないパリの写真は独特的な雰囲気を持ち、シュルレアリストたちを魅了しました。そのほかケルテスやラルティングなどによる20世紀初頭の写真をまとめて展示します。



ジョルジョ・デ・キリコ《女王の美術館》1924年、油彩・キャンバス

一方でアジェは19世紀後半の変化しつつあるパリの姿を早朝の街を歩きながら撮影しました。当時のパリを知る貴重な資料であると同時に人気のないパリの写真は独特的な雰囲気を持ち、シュルレアリストたちを魅了しました。そのほかケルテスやラルティングなどによる20世紀初頭の写真をまとめて展示します。



サルバドール・ダリ《記憶の persistence》1931年、油彩・キャンバス

一方でアジェは19世紀後半の変化しつつあるパリの姿を早朝の街を歩きながら撮影しました。当時のパリを知る貴重な資料であると同時に人気のないパリの写真は独特的な雰囲気を持ち、シュルレアリストたちを魅了しました。そのほかケルテスやラルティングなどによる20世紀初頭の写真をまとめて展示します。



ジョルジョ・デ・キリコ《女王の美術館》1924年、油彩・キャンバス

一方でアジェは19世紀後半の変化しつつあるパリの姿を早朝の街を歩きながら撮影しました。当時のパリを知る貴重な資料であると同時に